

圓教寺愛宕社本殿

愛宕社は圓教寺の北側の斜面にあり三つの堂を見下ろしている。18世紀初頭以前に建てられたと考えられている。1331年に寺院の全てを消滅させた火災を受け、火伏の役目の愛宕社は、三つの堂を守る役割を果たしている。愛宕社の特徴は、その優雅な流線形の屋根にある。数万枚の薄いこけら板を葺いた茅葺き屋根で覆われている。屋根の傾斜は正面に向かい優雅に下がり、上向いたアーチを形作っている。アーチの下で、参拝者は愛宕の神を呼び、祈り、供物を置くために上から下がっている鈴を鳴らす。

圓教寺の境内には、日本の土着の信仰である神道に関する複数の神社がある。仏教寺院の敷地内に神社が存在すること、特に密教寺院では神仏混交は珍しいことではない。日本の近代まで仏教と神道の明確な区別はなく、両宗教の神々がしばしば融合していた。愛宕社は、両方の宗教的伝統の垣根を越えて崇拝された合同神格の一例である。